

―新政権に求める―

★戦争準備をやめ、平和の為に金を！

◆2月の衆院選挙で政権与党が3分の2を超える圧勝となりました。私たち「憲法を守る会」は、これからの日本の歩みに危険なものを感じています。

戦争準備に傾斜する日本

◆今、国会は年度予算の審議に入っていますが、特に目立つのが国防費(軍事予算)の増加です。食品消費税減税(約5兆円)に目を奪われていますが、その倍近くの額が国防費に計上されているのに、議論の対象になっていません。

◆かつて日本の国家予算は教育費が常に国防費より多く計上され、戦争の反省に立った平和な国の姿を示してきました。しかし、時が経つにつれ国防費が増加し、2022年にはついに教育費を逆転しました。

◆そして26年度当初予算の国防費は過去最大の9・4兆円を組んでいます。一方、教育予算は5・8兆円で完全に逆転されています。戦争準備に傾斜する国の姿がはつきり見えます。

思想信条の自由が抑圧される予感

◆一方、戦争準備のためのソフト面での動きで心配なのが、「スパイ防止法」制定準備と「国家情報局」の設置準備(2月26日政府提言)の動きです。

◆これらの法律・機関が機能し始めると、言論の自由、思想信条の自由が抑圧される危険が増すことが予想されます。かつて戦争に反対した国民が「非国民」と呼ばれた時代が来ないとも限りません。

「非戦・非武装」「思想信条の自由」「平和日本」

◆かつて日本が起こした先の大戦によって、日本国民310万人、アジア諸国民約1千万人が犠牲になりました。この大きな過ちの反省に立って戦後、平和憲法が制定されました。

◆そこにはもう二度と戦争をしないという誓い(第9条)、国民の精神の自由、そして平和日本の立ち姿をもって世界の平和に貢献するという理想がありました。

◆しかし新しい政権はこの理想を捨て、戦争に傾いていっている様に思われてなりません。その姿勢を改め、戦争準備から平和のために金を使う国になることを新政権に求めます。

二〇二六年三月八日(日) 平和スタンディング第7回
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中央区紺屋町三〇一―一五
★月例スタンディング 毎月第二日曜日・午後一時浜松駅北口



日本国憲法前文

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、信義を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようとは、平和を維持し、社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

第十九条

思想及び良心の自由は、これを侵してはならない。